

37 明治6年7月27日 菊池長閑宛

(長閑注記1)

第拾二号 七月廿七日認む (長閑注記2)

炎暑愈逞威之節御安体奉賀候左て工藤雅郎元寿太郎と申セシ人及ヒ藤村当时奉仕致候て給俸之内毎月五兩宛父母ニ給与致度(抹消)「就テハ」方今郵便ニても通送出来候得共若や不意之事有之候てハ甚迷惑之趣就てハ私ニ為替致各五兩ツ、私ニ遣し御当地にて同人等之父ニ御渡被下度那珂先生之伝手を受候由にて頼談ニ預り候此度ハ何分急呉候様申居候故御都合之程も分兼候得共引請間宜敷御取計被成下度私之都合ハ宜と申ニハ無之候得共兼テ尊諭も有之候通り毎月鍵屋良昭ニ預置候ハ、格別差支も可無之と存居候彼是とも尊答ニ因て取極可申候

御尊父様

武夫拜

頓首

(長閑注記1)

(朱書)「工藤負之助も達し」

(長閑注記2)

(朱書)「返事八月十三日此方十六号ニ而出し」